

# 静岡松涛タイム 第64号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：置塩大三郎

連絡先：0547-35-4537(TEL&FAX)

E-mail：takkukan@lemon.plala.or.jp

県本部 HP：http://www.shizuoka-karate.com/

広報部 HP：http://plaza.across.or.jp/~cyber-ex/

## ■第14回 JKS 静岡県空手道選手権大会■



5月19日(日)に「第14回 JKS 静岡県空手道選手権大会」が静岡市北部体育館にて開催されました。前日までの天気予報で雨が心配されていましたが、当日の朝は選手たちの意気込みが天に伝わり、雨雲

を吹き飛ばしたかのような快晴でした。静岡県大会は県内で行われる松涛連盟の試合では最も大きな大会です。選手達にとって、日頃の成果を発揮し、自身の力を試す大一番の大会です。弥が上にも皆気合が入ります。会場に入った途端、参加選手達が既にアリーナにて練習を始めている姿が目飛び込んできました。試合開始前から凄い熱気です。大会はどのコートの試合も見応えがあり、選手たちの真剣さがビシビシと伝わってきました。特に組手は学年が上がるごとに、力強さや攻撃の速さに驚かされました。センスやテクニック等、試合で勝つために必要なものはたくさんあると思うのですが、最後の最後は、気迫が体全体に出ている「本当に勝ちたい！」という強い気持ちを持つ選手が勝ち残っていくのだと感じました。私の所属する道場は、全体的にみて決して良い成績ではありませんでしたが、道場生たちは自ら進んで常に下級生の事を心配して、声を掛けて世話をしてくれていました。子供達にとって大会はいつも楽しい一大イベントです。惜しくも試合に敗れて悔し涙を流しても、帰りは皆笑顔です。「次の大会が楽しみだね、また稽古頑張ろうね！」と、皆で話しながら会場を後にしました。夏に開催される全国大会での静岡県勢の活躍が今から楽しみです。出場する選手の皆さん、日頃の稽古の成果を存分に発揮して頑張って下さい。最後になりましたが、大会運営関係者の皆様、各支部の先生方やコート係りの皆様のおかげで、今回も素晴らしい大会となりました。本当にありがとうございました。(レポート：掛川将陽館支部 落合 朱美)

## ■平成25年度静岡県本部通常総会■

平成25年度 静岡県本部通常総会が6月2日(日)に静岡市クーポール会館にて行われました。昨年度の収支報告や本年度の予算案・事業計画及び、会則の一部変更等を全会一致での承認に引き続き、本年度は役員任期満了に伴う役員改選という事で大井久生(前副本部長・高洲支部支部長)新本部長率いる新体制が発足致しました。今までの「会員の拡大、技術向上」に加え「武道人としての礼節の向上」をテーマに運営を行う事を本部長自ら発表致しました。総会終了後には別室に会場を移しての懇親会が開かれ、今後の展望を参加者全員が熱く語らうシーンがいたるテーブルにて見られました。静岡県内各道場の皆様、これからもどうぞよろしくお願いたします。(レポート：事務局長 菊地伸幸) ※新体制の組織概要は巻末に掲載



# ■平成 25 年度 6 月期昇段審査会■

■少年部初段■	杉山 悠大(高 洲)	水田 亜衣(藤 枝)	西川 明弘(静岡西)	望月 愛斗(高 洲)
山本 健風(静岡東)	神谷 隆葵(静岡西)	村岡 広輝(静岡西)	宮崎 一磋(西焼津)	高橋 光輝(律誠館)
池田 匠弥(安倍川)	村松 彪(律誠館)	大阪 京也(浜将陽)	岡本 夢翔(静岡西)	北澤 佑清(静岡西)
川西 康介(駿 河)	室井 瑞徳(高 洲)	玉手 希心(静岡西)	鈴木 莉緒(藤 枝)	石間 眞翔(西焼津)
楠 亜海(静岡北)	鈴木 彩南(静岡東)	皆越 広之(静岡東)	長澤奈津実(静 岡)	望月 真央(清 水)
■一般部初段■	村松 成則(律誠館)	長澤 明子(静 岡)	川口 洋充(清 水)	川口 公美(清 水)
松下 正弘(焼将陽)	平成 25 年 6 月 30 日(日) 実施 於 静岡市北部体育館			
■一般部二段■	小池 舞(浜将陽)	受験者総数 47 名 合格者 31 名		

## ■県本部主催強化練習■

全国・世界大会 1 週間前となる、7 月 21 日(日)に静岡北部体育館にて県本部主催の強化練習が開催されました。大会に出場する選手が 140 名参加し、会場内は参加選手の意気込みを感じさせる熱気が溢れていました。午前中は準備体操後、基本・型を行いました。型は小学 2 年生以下と小学 3 年生以上に別れ進めて行き、平安・鉄騎、順路型に続き拔塞・観空・燕飛・慈恩、それ以上の型に分けを先生方に指導を受けました。午後得意型の内容について細部まで指導していただきました。その後は基本組手・自由組手別に分け技の出し方や試合形式による大会に向けた最終確認を行いました。今回は 1 日目の全国大会に続き 2 日目には全国大会上位入賞者を加えて、世界 52 か国から参加の世界大会があり、例年になく多くの選手が出場するとあって参加選手の活躍が期待されます。各県代表や日本代表選手の皆さんの日頃の稽古の成果を存分に発揮し、大会での健闘を心より願っております。(レポート：藤枝高洲支部鷹生館 小椋明)

